

## 目指す子供の姿

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えをもったり、まとめたり、広げたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

## 目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①育成を目指す資質・能力を明確にし、実施状況を評価して改善を図りながら、子供一人一人に最適な学びを重ねていく場の設定
  - ◇振り返りやアンケート、学力調査等を活用し、子供一人一人のつまずきを捉えて指導する。
  - ◇国語科で育成した資質・能力を他教科等の学習に生かすことができるように、教科等横断的な学習の充実を図る。
- ②「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させ、言語活動を通して資質・能力を育成する単元の構想と展開
  - ◇語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の推進や実生活に関連した言語活動を取り入れるなどして、語句を蓄積することや蓄積した語句を意図的に使わせることに、継続的に取り組む。
  - ◇目標と言語活動の設定の工夫、学習の手引きや多様なモデルの提示等、指導と支援を通し、他者と協働しながら、主体的に学習を進める過程を設定する。
  - ◇子供の実態を的確に捉え、実態に即して、学習過程を弾力的にし、螺旋的・反復的に繰り返したり取り立てたりして指導する。
  - ◇目的や意図に応じて、必要な情報を取り出して整理し、その関係を捉えることで、話や文章を正確に理解したり、自分のもつ情報を整理し、その関係を明確にすることで、適切に表現したりする活動を設定する。
  - ◇言葉による見方・考え方を働かせるために、子供が比較・分類・関係付け等様々な思考に取り組むよう発問や指示を工夫する。
- ③身に付けた資質・能力や学習内容をICT活用等により自覚化を図る指導の充実
  - ◇多様な学習の記録(ノート、成果物、映像等電子データ)が生まれるように工夫する。
  - ◇「書くこと」を通して振り返りをさせるとともに、ICTの効果的な活用により、学びを深めさせる。